研究ノート

戦時下の漫画にみる逓信事業と戦争
―郵政資料館所蔵雑誌『逓信の知識』および『大逓信』掲載漫画の研究―

後藤　康行

1 はじめに

戦時下[1]において、郵便や貯金、電信、電話といった逓信事業を、国家が国民に向けていかに宣伝していたのか。筆者は、郵便の一種である軍事郵便の周知徹底を目指す国家の宣伝活動を考察したことがある。国家による軍事郵便の宣伝方法としては、政府の政策を国民に分かりやすく伝えることを目的としていたグラフ誌『写真週報』の利用、逓信省の付属機関である逓信博物館（現在の逓信総合博物館＝郵政資料館）による企画展示の実施や野戦郵便局の記録映画の製作など、メディアを活用したものであった[2]。そのなかで、漫画を利用した方法もあった。逓信博物館が発行していた月刊誌の『逓信の知識』第２巻第７号（1938年７月）には、「のらくろ」で知られる田河水泡の描いた「軍事郵便」という漫画が掲載されているのである[3]。

この『逓信の知識』という雑誌には、田河の「軍事郵便」以外にも、多くの漫画が掲載されている。それも、田河のような当時を代表する漫画家による作品である。そこで本稿では、戦時下における漫画と国家との関係を考えるため、国家機関である逓信省と漫画との関係に注目し、逓信省がいかに漫画を活用していたのかみていくことにする[4]。

資料としては、郵政資料館に所蔵されている『逓信の知識』と、同じく郵政資料館に所蔵されている雑誌『大逓信』を利用する。両誌の詳細については後述するが、どちらも戦時中に発行されていた雑誌であり、『逓信の知識』は逓信省の付属機関である逓信博物館による発行、『大逓信』は逓信省による発行であった。両誌ともに月刊誌で、定期的に漫画が掲載されていた。戦時中の漫画と逓信省との関係をみていくには適した資料といえるだろう。

1　本稿でいう「戦時下」や「戦時中」とは、1937年から1945年までの間を指す。

2　拙稿「メディアに描かれた軍事郵便―イメージにみる戦地と銃後―」（『専修史学』第45号、2008年11月）、同「戦争と手紙―戦地と銃後を結ぶ軍事郵便―」（「戦争とメディア」刊行会編集・発行『戦争とメディア―報道・宣伝・記憶―』2009年）。

3　田河の描いた漫画「軍事郵便」の内容については、拙稿「戦時下における軍事郵便の社会的機能―メディアおよびイメージの視点からの考察―」（『郵政資料館　研究紀要』第２号、2011年３月）のなかで紹介しているので参照されたい。

4　戦時下の漫画と国家との関わりについて考察した先行研究に、井上祐子「戦時下の漫画―新体制期以降の漫画と漫画家団体―」（『立命館大学人文科学研究所紀要』第81号、2002年12月）がある。ここで井上が考察の対象としたのは、1940年８月に漫画家団体の一元化を目指して結成された新日本漫画家協会とその機関誌として発行された『漫画』、1943年５月に結成された日本漫画奉公会などであった。なお、この井上論文では、戦時中の漫画を考察している先行研究について簡潔に整理がなされているので参照されたい。

❷ 『逓信の知識』に掲載された漫画

⑴ 『逓信の知識』の概要

具体的な漫画の分析に入る前に、先ずは本節で利用する『逓信の知識』の概要について述べておく。『逓信の知識』は、逓信博物館が発行していた月刊誌で、発行の目的は、逓信事業の内容を国民に分かりやすく伝えることであった。

創刊されたのは、1937（昭和12）年７月である。四六倍判で、本文は全16頁。逓信事業の近況を伝えるニュース記事に加え、漫画や小説（阿部知二や井伏鱒二などが寄稿）などが掲載されていた(5)。また、本文以外の欄として、「特輯グラフィツク」という写真欄もあった。表紙を飾る写真は、戦地の兵士が手紙を読んだり書いたりしている様子が写された写真や（第３巻第５号、1939年７月、図１）、子どもがポストに手紙を投函する瞬間の写真など（第３巻第７号、1939年９月）、逓信という事業が国民にとって身近なものであると感じさせる写真が選ばれていた(6)。

流通方法としては、郵便局や電信局、電話局などを通じて、全国の官公庁、銀行、学校、図書館などに配布されるという形がとられていた。非売品なので、無償での配布ということになる。ただ、要望があれば個人の購入も可能で、逓信博物館内にあった「逓信の知識」編集部宛に、送料代金３銭を支払えば購入することができた。支払い方法は、郵便振替もしくは３銭分の切手を同封しての申し込みであった(7)。

図１　『逓信の知識』第３巻第５号表紙

発行部数は、創刊当初は10万部。その後、第２巻第５号（1938年５月）からは12万部に増えたのだが、第２巻９号（1938年10月）からは紙の節約を理由に偶数月のみの隔月発行となった(8)。ただ、隔月発行はすぐに止めることになり、第３巻第３号（1939年５月）からは再び毎月発行に戻った。その代わり、発行部数は６万部と半減した。第５巻第４号（1941年４月）を最後に廃刊となっている。廃刊の理由は、物資の節約であった(9)。郵政資料館には、創刊号から最終号まで全て所蔵されている。

⑵ 掲載された漫画

それでは、『逓信の知識』に掲載された漫画についてみていこう。表１は、『逓信の知識』に掲載された漫画の一覧である。北澤楽天、岡

5　『逓信の知識』第１巻第２号（1937年８月）、同第１巻第３号（1937年９月）の目次。
6　創刊号では、郵便の輸送手段の発展を伝えるためか、表紙に飛行機と自動車が登場している。最終号では、子ども２人がポストに手紙を投函する場面が表紙を飾っている。
7　『逓信の知識』第５巻第３号（1941年３月）の奥付。
8　「おことわり」（『逓信の知識』第２巻第９号、1938年10月）。
9　以上、『逓信の知識』の概要は、注記がない限り、逓信博物館編集『逓信博物館七十五年史』（信友社、1977年、39頁）を基にしている。

本一平といった大家や、田河水泡、横山隆一、島田啓三、近藤日出造、麻生豊などの人気漫画家が描いた漫画が掲載されていた。彼らが『逓信の知識』に漫画を描くことになった経緯は不明だが、雑誌の発行者である逓信博物館が執筆を依頼したものと思われる。著名な漫画家による作品が掲載される欄とは別に、読者投稿欄も設けられており、そこには鈴木耕輔、大湊秀二浪、柏ぎん子、峠哲兵など、投稿を主としていた漫画家の作品が掲載されていた(10)。

図２　田中比左良「蜜月旅行に快適郵逓」

表１に、彼らによって描かれた漫画の簡単な内容を記しておいた。それを参照してもらえば分かるように、速達や電報、電話、年賀状、貯金、国債など、様々な逓信事業をテーマにして漫画が描かれている。例えば、創刊号に掲載された田中比左良の「蜜月旅行に快適郵逓」（表１・番号１）は、電報や速達が旅行先に即座に届けられることを描くことで、その便利さを読者に伝えている（図２）。

便利さを伝えると同時に、利用上の注意を伝えることも忘れていない。麻生豊の「秋の郵便局」（表１・番号５）は、小包を送る上での禁止事項を紹介しており、乙六郎の「百年の恋も」（表１・番号19）では、切手の貼り忘れを注意する内容になっている。

図３　北澤楽天「創業回顧漫画」より「タレベン」

同時代だけではなく、過去や未来の逓信事業の状況についても描かれていた。北澤楽天の「創業回顧漫画」（表１・番号36）には、「タレベン」という作品がある。これは、郵便制度の開始当時、ポストの「郵便」（ゆうびん）という文字が「垂便」（たれべん）と読まれ、便所と勘違いされたことを描いたものである（図３）。一方、皇紀2600年に当たる1940（昭和15）年に描かれた島田啓三の「紀元二千七百年ともなれば」（表１・番号56）では、百年後の電話について想像されている。車内電話や携帯電話など、紀元2700年を待たずに実現したものや、ペットと会話可能な電話という紀元2700年でも実現が困難と思われるようなものが描かれていた。

戦時下なので、戦争と関連する漫画も掲載されていた。最初に述べたように、田河水泡は「軍事郵便」という作品を描いていたが、このほかにも軍事郵便をテーマにした作品はいくつも登場してくる。例えば、いく坊の「昔と今」（表１・番号25）という作品では、かつてはポストを満杯にしていたのはラブレターであったのが、今では軍事郵便でポストが満杯になっていると描かれている（図４）。

戦時中における軍事郵便の発信数は、正確には把握されておらず、一部推計も含まれたものであるが、1937年から1941（昭和16）年までの５年間分のみ記録が残されている。それによる

10　彼ら投稿漫画家の作品は、『写真週報』にも掲載されていた（櫻本富雄『戦争とマンガ』創土社、2000年、75頁）。なお、後出の表２の注にも記していることだが、大湊秀二浪は郵便局員である。

図４　いく坊「昔と今」

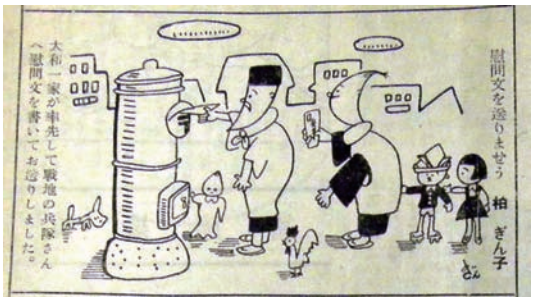

図５　柏ぎん子「慰問文を送りませう」

と、1937年は４億9,000万通、1938（昭和13）年は３億4,500万通、1939（昭和14）年は４億2,600万通、1940年は３億9,400万通、1941年は３億8,500万通となっている(11)。郵便全体でいうと、1930（昭和５）年には郵便の利用は年間約44億通で、国民１人当たり月平均で5.7通出していた(12)。戦時中は、若干減少しているものの、40億通前後であった(13)。この郵便の総数をみると、戦時中とはいえ、軍事郵便だけでポストが満杯になるという状況であったとは考えにくい。ただ、戦時中の国民にとっては、軍事郵便が身近な存在であったことは間違いない(14)。図４の漫画は、軍事郵便が戦時中の手紙を象徴するものであることを分かりやすく描いているのである。

柏ぎん子の「慰問文を送りませう」（表１・番号77）は、「翼賛一家・大和家」が慰問文をポストに投函している場面が描かれている（図５）。「翼賛一家・大和家」とは、横山隆一や近藤日出造ら著名な漫画家によって1940年８月31日に設立された新日本漫画家協会が作成したキャラクターで、協力金を納めれば誰でもそのキャラクターを使用することができた(15)。図５の漫画のなかに登場しているのは、ポストに慰問文を投函しているのが大和武士、その後ろにいるのが妻の大和ふぢ、その後ろにいる子ども二人は武士の孫の大和三郎と稲子、ポストの前にいる赤ちゃんは武士の孫の大和昭子というキャラクターである。

直接軍事郵便を描いたものではないが、中田河豚の「父恋し」（表１・番号72）は、戦地である「外地」への手紙の発送料金を紹介するための漫画になっている。この漫画では、子どもが郵便配達員に戦地の父親のところへ連れて行くよう頼む場面が描かれている。なぜ子どもが配達員にそのようなことを頼んだのかというと、母親が４銭の切手を貼れば戦地に手紙が届くことを教えたため、子どもは自分に４銭の切手を貼れば戦地へ行けると思ったのである。当時、中国や「満洲」宛ての書状の発送料金は４銭であった（20グラムごとに増額）(16)。軍事郵便以

11　郵政省編『続逓信事業史　第三巻　郵便』財団法人前島会、1960年、948～949頁。

12　辻村清行「パーソナル・メディアによる情報流通量についての考察」（『情報通信学会誌』第77号、2005年５月）。

13　前掲郵政省編『続逓信事業史　第三巻　郵便』947～949頁。

14　戦時中の社会のなかで、国民が軍事郵便という制度といかに接する機会があったのかについては、前掲拙稿「戦時下における軍事郵便の社会的機能」のなかで詳細に述べているので参照されたい。

15　清水勲『漫画の歴史』岩波新書、1991年、156頁。「翼賛一家・大和家」の使用例については、前掲櫻本『戦争とマンガ』（115～135頁）のなかで詳細に紹介されている。

16　「通常郵便物の種類及料金」（『逓信の知識』第１巻第１号、1937年７月）。

外にも、戦争と関連したテーマを描いた漫画は掲載されており、防空をテーマにしたもの（表１・番号27～29）、「貯蓄報国」を奨励するもの（表１・番号57～63）、国債の購入を促すもの（表１・番号65）などがあった。

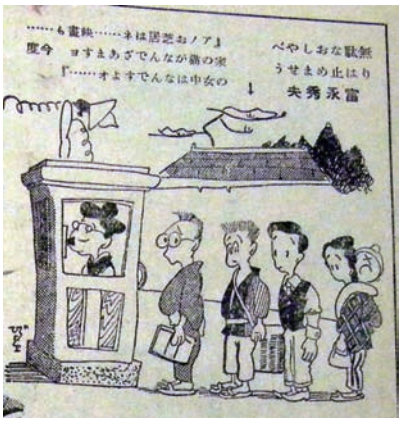

図６　富永秀夫「無駄なおしやべりは止めませう」

逓信の利用を促す漫画が多いなかで、戦時下だからこそ、逆に利用を控えることを訴える漫画もあった。富永秀夫の「無駄なおしやべりは止めませう」（表１・番号80）は、公衆電話の前に、順番を待つ人々の列ができている状況を描くことで、不要不急の電話の利用は避けるべきと訴えている（図６）。逓信博物館では、1941年11月10日から30日に、「軍事郵便ノ利用勧奨及電信電話利用規制ノ特別展示」という企画展示が行われた。これは、軍事郵便の利用奨励を図ると同時に、通信の混線を防止するため、不要不急の電話や電信の自粛、通話内容の簡略化を国民に訴えるために開かれた展示である(17)。逓信事業を司る逓信省にとっては、通信の安定は最優先事項であり、それが戦時下ともなればなおさらのことであった。

さて、ここまで具体的な事例をいくつか紹介しながら、『逓信の知識』に掲載されていた漫画についてみてきたわけだが、その結果としていえることは、『逓信の知識』に掲載されていた漫画は、どれも逓信事業の紹介を目的としていた漫画であったということである。戦争関連の作品であっても、声高に戦意高揚を訴えるものはなく、慰問文の送付や国債の購入、不要不急の電話の自粛など、国民が「適切」に逓信を利用することを目指して漫画が描かれていた。

どの漫画も、何らかの逓信事業をテーマにして描かれていたということは、別の言い方をすれば、逓信事業とは関係のない漫画が『逓信の知識』に掲載されることはなかったということである。つまり、『逓信の知識』からみえてくる漫画と逓信省との関係は、逓信省が付属機関である逓信博物館を介して、自らの担う業務を宣伝するために漫画を積極的に活用しようと考え、これに対して有名無名を問わず多くの漫画家が協力していたという構図であった。

それでは、『大逓信』に掲載された漫画からは、漫画と逓信省とのいかなる関係がみえてくるのか。この点については、次節で述べることにする。

❸　『大逓信』に掲載された漫画

⑴　『大逓信』の概要

『逓信の知識』と比較すると、『大逓信』については不明な点が多い。先ず、創刊と廃刊の時期が不明である。郵政資料館には、第75号（1942年５月）から第103号（1944年９月）までしか所蔵されていない（その間でも所蔵されていない号がある）(18)。ただ、『大逓信』を所蔵している資料館や図書館などを、筆者は郵政資料館以外では確認できていないので、一部分であれ所蔵されていること自体が貴重とはいえる。なお、筆者は『大逓信』第88号（1943年６月）、

17　この企画展示については、前掲拙稿「メディアに描かれた軍事郵便」でも触れているので参照されたい。

18　後出の表２に記載されているものが、郵政資料館に所蔵されている『大逓信』の全て。

番号	号　数	発行年月	作　者	タイトル	内　容	備　考
1	第１巻 第１号	1937年７月	田中比左良	蜜月旅行に快適郵逓	ハネムーン先にも届けることができる電報や速達の便利さを紹介した３つの漫画を掲載	田中は女性を描く漫画家として知られる
2	第１巻 第２号	1937年８月	川原久仁於	逓信ユーモア四題	航空郵便や電話の便利さを紹介	川原は軽妙な漫画を得意としていた
3	第１巻 第３号	1937年９月	前川　千帆	配達喜悲／暑寒問答	慶弔電報を届ける配達員の気持ちを表現／国際電話なら暑い所と寒い所にいる人同士が話せる	どちらの漫画も同じページに掲載
4	第１巻 第４号	1937年10月	池部　鈞	軍国郵便風景	連隊長の軍事郵便に敬礼する一等兵の配達人など、３つの漫画が掲載	池部は当時を代表する漫画家の一人で、俳優池部良の父として知られる
5	第１巻 第５号	1937年11月	麻生　豊	秋の郵便局	生もの禁止など小包を送る上での注意点を紹介	麻生は「ノンキナトウサン」の作者として知られる
6	同上	同上	大湊秀二浪	ポストの感情	ポストが擬人化され、手紙を投函する人の思いに応えている	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
7	第１巻 第６号	1937年12月	細木原青起	歳末賀状特別扱風景	年賀状をテーマに4つの漫画が掲載	細木原は『日本漫画史』を著した漫画家
8	第２巻 第１号	1938年１月	岡本　一平	正月いろいろ	初日の出のなか、戦勝や逓信事業の発達を願い万歳する局員など、4つの漫画が掲載	岡本は北澤楽天とともに当時の大家といえる存在
9	同上	同上	大湊秀二浪	電話番号の間違ひ	電話で野菜のかぶを注文するつもりが株の仲買人に電話をかけるなど、間違い電話をおかしく描く	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
10	第２巻 第２号	1938年２月	宮尾しげを	雪国の郵便風景	熊に追われてスキーで逃げる配達人など、雪国の郵便風景をユーモアを交えて描く	宮尾は岡本一平の弟子で、子ども向け漫画の作者として知られる
11	同上	同上	鈴木　耕輔	若し女の郵便屋さんが出来たら	乳母車で配達、配達前に化粧、夜は危険なので大勢で配達する女性を描く	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
12	第２巻 第３号	1938年３月	北澤　楽天	逓信笑話今ならば	老後には郵便貯金、略号一字で済む電報など、逓信事業の便利さを描いた4つの漫画を掲載	『東京パック』創刊で知られる北澤は、当時の漫画界の大家
13	第２巻 第４号	1938年４月	島田　啓三	オリムピック貯金二題	子どもの貯金を奨励する2つの漫画を掲載	島田は北澤楽天の弟子で、「冒険ダン吉」の作者として知られる
14	同上	同上	中村　文八	ポストは語る	番号6の漫画とほぼ同じ内容	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
15	第２巻 第５号	1938年５月	小山内　龍	三郎と叔父さん	移動郵便車は持ち合わせがないときに便利	小山内は横山隆一や近藤日出造ら　とともに新漫画派集団を結成
16	同上	同上	大湊秀二浪	郵便配達さんの愛国行進曲	出局から配達、そして帰局まで仕事を全うすることが郵便配達人にとっての愛国	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
17	第２巻 第６号	1938年６月	近藤日出造	十年後の航空界	超高速の飛行機や郵便配達用一人乗り小型飛行機が開発されている	近藤は1940年8月結成の新日本漫画家協会の機関紙『漫画』の主筆

番号	号　　数	発行年月	作　　者	タイトル	内　　容	備　　考
18	同上	同上	鈴木　耕輔	珍案・改良ポスト	雨の日に投函口が濡れて手紙のインクがにじむのを防ぐため、ポストに傘をさす	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
19	同上	同上	乙　　六郎	百年の恋も	ラブレターを投函したものの、切手を貼り忘れたことに後から気づく	同上
20	第２巻　第７号	1938年７月	田河　水泡	軍事郵便	激戦の戦地から出された兵士の手紙を、受け取った家族は神棚に置いて丁重に扱う	田河の代表作「のらくろ」はすでに映画になるほどの人気作品であった
21	同上	同上	中村　文八	電話キ表情	番号6とほぼ同じで、電話が擬人化されている	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
22	第２巻　第８号	1938年８月	横山　隆一	海のユービン局	もし海の郵便局ができれば溺れたときも電報が打てて安心	国民的漫画「フクチャン」の作者として、横山は絶大の人気を誇っていた
23	第２巻　第９号	1938年10月	峠　　哲兵	近代婆さん	へそくりはたんす貯金ではなく郵便貯金	「漫画コンクール　読者のページ」という欄に掲載
24	同上	同上	大湊秀二浪	健脚報国	歩きに自信があるのは郵便配達員だから	同上
25	同上	同上	い　く　坊	昔と今	昔はラブレター、今は軍事郵便でポストがいっぱいにあふれている	同上
26	同上	同上	峠　　哲兵	後悔先に立たず	空の封筒を出したことを後で気づく	同上
27	同上	同上	鈴木　耕輔	本格的防空演習	行嚢で防毒マスクを作ったけど、マスクでご飯が食べられない	同上
28	同上	同上	同上	カモフラージュ	郵便局を敵機から守るため、屋根を迷彩模様に	同上
29	同上	同上	同上	郵便屋さんの考案	敵機から身を守るため、木の枝を持ち歩く郵便配達員	同上
30	同上	同上	原山　鯛一	郵便屋さんの背中	郵便屋さんの背中は職業柄葉書のよう	同上
31	第２巻　第10号	1938年12月	吉田	文字ハ下手デモ丁寧ニ	手紙を書くなら、文字は丁寧な字で	「波紋　読者のページ」という欄に掲載
32	同上	同上	素描　弘坊	無題	番犬のせいで電報が届けられなくて困る配達員	同上
33	同上	同上	玉田　甚太	無題	内容を理解できず（手紙を運ぶ学生風の男の後ろに犬がいるという構図が描かれている）	同上
34	同上	同上	ダンダン吉郎	叔母恋しさに	住所を「トウキョウノオバチャン」と記載	同上
35	同上	同上	珍　太　郎	無題	大至急と呼ばれた先生が着いてみると、字が読めないので軍事郵便を読んでほしいとのこと	同上

番号	号　数	発行年月	作　者	タイトル	内　容	備　考
36	第３巻 第２号	1939年４月	北澤　楽天	創業回顧漫画	かつてはポストが便所に間違われたが、今や航空郵便や無線、ラジオは当たり前	郵便制度開始当時、ポストの「郵便」という文字が「垂便」と勘違いされた
37	第３巻 第３号	1939年５月	石川　義夫	逓信漫画	逓信事業をユーモアを交えて紹介	石川義夫（利根義夫）は、新漫画派集団のメンバー
38	第３巻 第５号	1939年７月	須藤　重	郵便やさん	息子に似た配達員の顔見たさに手紙を毎日出す母親	絵は須藤、内容は明石精一が担当
39	第３巻 第６号	1939年８月	鈴木　耕輔	杢平銀坊会場膝栗毛まんが報告	「興亜逓信展覧会」（1939年8月19日～29日、於：日本橋三越）の概要報告	漫画に「KOH」のサインがあるので、鈴木耕輔が作者だと推定した
40	第３巻 第７号	1939年９月	御法川富夫	航空郵便	飛行機からパイロットが手紙を投函できるように、ビルよりも高いポスト	「読者漫画」という欄に掲載
41	同上	同上	同上	漂流	筏で漂流する２人、ポストを作ったので「何か便り書けよ」と話しかける	同上
42	同上	同上	鈴木　耕輔	無題	誰もが貯金に励むので、郵便局の隣の呉服屋は大売出しをやっても全く客が来ない	同上
43	第４巻 第１号	1940年１月	加曾利鼎造	無題	紀元2600年を祝して五鈴鏡を描く	逓信博物館図案部同人「彩管興趣」という欄に掲載
44	同上	同上	武智　肇	無題	紀元2600年を祝して富士山を描く	同上
45	同上	同上	大塚　均	無題	日の丸を掲げた各戸の上で、太陽が強い光を放っている	同上
46	同上	同上	藤沼　朝保	二千六百年を祝して	土地を耕す３人の人物を描く	同上
47	同上	同上	木村　勝	無題	国のために働く「兵隊さん」のおかげで、紀元2600年の初日の出を迎えることができる	同上
48	同上	同上	吉崎　勝	無題	紀元2600年を祝して天の逆鉾を描く	同上
49	同上	同上	西澤　文雄	無題	紀元2600年を祝して獅子舞を描く	同上
50	同上	同上	日置　勝駿	郵便待つ子	ポストの前で郵便（年賀状と思われる）を待つ子ども	同上
51	同上	同上	増山　修	興亜の宝船	前線の兵士に宛てられた軍事郵便（年賀状）を船で運んでいる	同上
52	第４巻 第９号	1940年９月	お軽かん平	宛名は広い	宛名として「センチノオトウサンヘ」と記された手紙を持ち、配達先が分からず困るも、涙してしまう配達人	「躍進逓信」という欄に掲載
53	同上	同上	熊本　一夫	線路工員の昼飯時	電柱の上で昼飯を食べる工員	同上
54	同上	同上	同上	悪性インフレ防止策	郵便局の窓口に「美人」の女性を配置すると、男性が殺到	同上

番号	号　　数	発行年月	作　　者	タイトル	内　　容	備　　考
55	同上	同上	同上	国策結婚	結納が国債で届けられる	同上
56	第４巻 第10号	1940年10月	島田　啓三	紀元二千七百年ともなれば	車内電話、携帯電話、動物と会話可能な電話など、100年後の電話を想像	第4巻第10号は「電信・電話特輯」号
57	第４巻 第11号	1940年11月	井崎かずを	郵便貯金七十億円突破！	貯金をテーマに３つの漫画が描かれている	雑誌の表紙の裏に掲載　井崎は報道班員としてビルマへ派遣された
58	同上	同上	木村謙造	貯蓄報国	全校生徒の貯金通帳を運ぶ先生	「特輯漫画「貯蓄報国」」という欄に掲載
59	同上	同上	轟　てん平	大きな貯金箱	子どもにポストが貯金箱だと話す父親	同上
60	同上	同上	鈴木　耕輔	当世嫁えらび	嫁にするなら毎日貯金するような人	同上
61	同上	同上	大作　重雄	借金取と貯金	皆がよく払ってくれるので貯金しに行く大家	同上
62	同上	同上	月島　秀夫	感違ひ	貯金箱と間違えてポストにお金が入っている	同上
63	同上	同上	林　　茂	貯蓄奨励	家の扉を貯金通帳と同じ模様に	同上
64	第４巻 第12号	1940年12月	鈴木　耕輔	冬支度	積雪に備えて、木の上にロープでポストを固定	漫画の隣に「漫画募集」の告知あり
65	同上	同上	横山　隆一	フクチャンと支那事変国債	フクチャンが仲間になぞなぞを出す、その答えが「支那事変国債」	雑誌の裏表紙に掲載「フクチャン」は同誌に限らず、当時の様々な雑誌に登場
66	第５巻 第１号	1941年1月	月島　秀夫	無題	手品師からの慰問袋には、鳩やキャラメルなど次から次と出てくる	「新年特輯逓信漫画」という欄に掲載
67	同上	同上	神林　正義	任務は重し	紙を食べてしまう羊から郵便物を守る配達員	同上
68	同上	同上	柏　ぎん子	国策順応	ポストにたてかけられた看板には、「生めよ殖やせよ長期建設」の文字	同上
69	同上	同上	峠　　哲兵	節約時代	ローラースケートを履いて手紙を配達することを提案	同上
70	同上	同上	月島　秀夫	細字の手紙	手紙の文字が小さいので、易者に虫眼鏡を借りる	同上
71	同上	同上	鈴木　耕輔	誤解無用	大きな鞄を持ち歩く配達員は、今から質屋に行くと勘違いされる	同上
72	同上	同上	中田　河豚	父恋し	子どもが配達員に戦地の父の所へ連れて行ってと頼む、母が4銭の切手で行くと言っていた	同上
73	同上	同上	木村　謙造	代用品ポスト難	ポストが壊れると大変だからキャッチボールは離れたところでと頼む郵便屋	同上

番号	号　　数	発行年月	作　　者	タイトル	内　　容	備　　考
74	同上	同上	安田　光二	坊やの願ひ	手紙を兄に渡してと配達員に頼む子ども	同上
75	同上	同上	中瀬　健坊	坊やの親切	配達員に、ポストに入れておけば全部届くと教えてあげる子ども	同上
76	同上	同上	志水きよし	空けてビツクリ	戦地の父から送られてきた小包の中身は青龍刀	同上
77	第５巻　第２号	1941年２月	柏　ぎん子	慰問文を送りませう	「翼賛一家・大和家」が慰問文を出す	「投稿漫画」という欄に掲載
78	同上	同上	齋藤　　篤	節分	貯蓄に殺到する人々で窓口は大賑わい	同上
79	同上	同上	内山　秀雄	有難迷惑	表札を書く仕事をしているお店の表札がどれだが分からない	同上
80	第５巻　第３号	1941年３月	富永　秀夫	無駄なおしやべりは止めませう	公衆電話に長蛇の列	同上
81	同上	同上	青梅まちを	易者債権を買ふ	債権の番号を占う易者	同上
82	同上	同上	柏　ぎん子	郵便屋さんの涙	兵隊さんへの手紙が増えて、働きがいがあると喜ぶ配達員	同上
83	同上	同上	濱野　政男	気が早い	三つ子が生まれたので、貯金箱を3つ買いに行くと言い出す男性	同上
84	同上	同上	鈴木　耕輔	よくある風景	書留が届いたけど印鑑が見つからない	同上
85	第５巻　第４号	1941年4月	富永　秀夫	門構は正確に分かりよく！	飼い犬の表札も作ってと父親に頼む子ども	「投稿漫画郵便特輯」という欄に掲載
86	同上	同上	鈴木　耕輔	皆さん御注意！	鉛筆で書いてあった名宛が消えてしまい、届け先が分からなくなってしまった配達員	同上
87	同上	同上	柏　ぎん子	子宝部隊の進軍	子どもたちは学校へ、父親は仕事（郵便屋）へとそれぞれ出かけていく朝の風景	同上
88	同上	同上	富永　秀夫	郵便ごつこ	郵便屋さんのまねをしてあそぶ子どもたち、切手の貼り忘れの注意をしている	同上
89	同上	同上	中川フサヲ	兵隊さんへお手紙を！	兵隊さんに手紙を出す風景を描いたもの、画中に「兵隊サンハ手紙ガオ好キデス」の文字	同上

注

・備考記載の作者情報は、櫻本富雄『戦争とマンガ』（創土社、２000年）および夏目房之助・竹内オサム編著『マンガ学入門』（ミネルヴァ書房、２009年）を典拠としている。

・第３巻第１号（1939年２月）、同第４号（同年６月）、同第８号～第10号（同年10月～１２月）、第４巻第２号～第８号（1940年２月～８月）には漫画が掲載されていない。

表１　郵政資料館所蔵『逓信の知識』掲載漫画一覧

同第106号（1944年12月）を所蔵している。どちらも郵政資料館には所蔵されていない号である。本稿はタイトルに「郵政資料館所蔵雑誌」と明記しているが、『大逓信』の研究に関しては、筆者所蔵の『大逓信』も利用することを断っておく。

図７　『大逓信』第98号表紙

『大逓信』を発行していたのは、逓信省内の一部局で、1943（昭和18年）年11月に逓信省が鉄道省と合併して運輸通信省と改組されてからは、運輸通信省の外局である通信院が発行していた。通信院は1945（昭和20）年５月に運輸通信省所管から内閣所管となり、逓信院と改称されるが、逓信院が『大逓信』を発行していたかどうかは不明である。

欠号があるので正確に何号からどこが発行と述べることはできないが、第75号から第81号（1942年11月）までは逓信省管理局現業調査課、第86号（1943年４月）から第93号（1943年11月）までは逓信省郵務局管理課、第95号（1944年１月）から第106号までは通信院総務局要員課が発行していたことが確認できる。発行が管理局から郵務局へと変更されたのは、1942（昭和17）年11月に行政機構の簡素化が実行された際に、逓信省では管理局が廃止されたためである(19)。

『逓信の知識』同様、月刊誌であった。Ａ５判で、これも確定的なことではないが、第75号から第86号までは全118頁、第92号（1943年10月）を除いて第90号（1943年８月）から第93号までは全88頁（第92号は全96頁）、第95号から第106号までは全64頁であった。『逓信の知識』のように写真が掲載されることはなく、表紙も地味な絵が飾ることが多かった。図７は、第98号（1944年４月）の表紙である。戦時下らしく、富士山と戦闘機が描かれている（作者は不明）。

雑誌の性質としては、発行していた部局が逓信省職員の厚生や養成を担っていたところなので(20)、『逓信の知識』のような対外的な広報誌というよりは、職員向けの機関誌という性質が強く、全国各地の逓信関連の事業所職員が記事を執筆していた。実際、職員には機関誌という認識があった。1941年４月、逓信省内に「逓信報国団」なる組織が結成された。読んで字の如く、逓信事業に携わる者として、国家に貢献すべく勤労に励むことを目的とした組織と思ってよい。『大逓信』は、1942年３月号（第73号と思われる）より、この逓信報国団の機関誌という扱いになっていた(21)。

それでは、『大逓信』は逓信事業関連の職員しか読むことができない雑誌であったのかというと、そうとはいいきれない。同誌には、「軍事郵便ポスター募集」という広告記事が掲載されることがあった。この募集は、逓信省から賞金が出るものであった(22)。逓信省が省内の職員向けに賞金付きのポスター図案の募集を行うとは考えにくいので、この募集は一般人を対象

19　郵政省編『続逓信事業史　第一巻　総説』財団法人前島会、1963年、156～157頁。

20　同前150頁、157頁、163頁。

21　矢部嘉彌「逓信報国団の運営に就て」（『大逓信』第76号、1942年６月）。矢部は逓信報国団の常任幹事であり、当時『大逓信』を発行していた逓信省管理局現業調査課の課長であった。なお、この矢部の記事では、『大逓信』を「機関紙」と表記しているのだが、『大逓信』は雑誌なので、本稿では「機関誌」と表記している。

22　「軍事郵便ポスター募集」（『大逓信』第81号、1942年11月）。賞金は、１等が500円、２等が100円、３等が50円であった。

としたものと理解すべきであろう。そうなると、『大逓信』は一般向けに公開されていた雑誌と考えたほうが適当である。『逓信の知識』と同様、全国各地の官公庁や図書館などに配布されていたのではないだろうか。

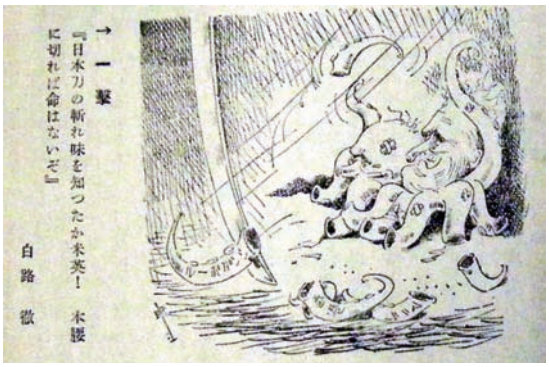

図８　白路徹「一撃」

図９　田内正男「未練男」

⑵　国防漫画聯盟作成の「時事漫画」

それでは、『大逓信』に掲載された漫画をみていこう。表２は、『大逓信』に掲載された漫画の一覧である。大家や流行の漫画家から投稿漫画家にいたるまで、様々な漫画家の手によって描かれていた『逓信の知識』の掲載漫画とは異なり、『大逓信』では国防漫画聯盟の手による「時事漫画」で占められていた(23)。

国防漫画聯盟とは、戦時中にいくつも存在していた漫画家団体の１つで、漫画史研究家の清水勲によると、メンバーは白路徹、御法川富夫、田内正男（野呂新平）、寺尾よしたか、吉野弓亮、坂本守弘、大沼弘である(24)。坂本の名前が表２にはないが、郵政資料館に所蔵されていない号に作品が掲載されている可能性はある。また、清水はメンバーとして挙げていないが、表２に名前のある岡堅児はメンバーである。同じく表２に名前のある里美弘二はメンバーかどうか不明である。国防漫画聯盟は、漫画家団体の一元化組織である新日本漫画家協会に設立当時から参加していたが、聯盟自体は解散することなく、『大逓信』に「時事漫画」を掲載していた。

『大逓信』に掲載された「時事漫画」の特徴は、表２の「内容」の項を参照してもらえば分かるように、アメリカのルーズベルト、イギリスのチャーチル、中国（重慶政府）の蔣介石という３人を登場させた漫画が大部分を占めるということである。「敵国」の首脳である彼らは、漫画のなかでは「敗れる運命にありながら、それを理解できずにいる愚かな指導者」として描かれている。例えば、白路徹の「一撃」（表２・番号10）では、タコになったルーズベルトとチャーチルが描かれており、その足が日本刀で斬られている（図８）。また、田内正男の「未練男」（表２・番号24）では、「重慶丸」という沈没目前の船にしがみつく蔣介石と、「新支那」と記され、太陽が昇ろうとしている陸地に逃げる中国人が描かれている（図９）。この３人を「愚かな指導者」として描く漫画は、当時の日本では決して珍しいものではなく、国防漫画聯盟のメンバーも所属していた新日本漫画家協会の機関誌である『漫画』においても頻繁に登場していた(25)。

ほかにも、ブラジルの連合国参戦（表２・番号32）、日本の上海共同租界の返還（表２・番号48）、ビルマ独立（表２・番号53、54）、第一次ケベック会談（表２・番号56）、学徒出陣（表２・番号58）など、「時事漫画」と名づけられている通り、時事問題をテーマに多くの漫画が

23　国防漫画聯盟が『大逓信』に掲載していた漫画には常に「時事漫画」と記されていたわけではないのだが、掲載漫画の内容は常に時事的なものなので、本稿では「時事漫画」と統一して表記している。

24　清水勲『漫画にみる1945年』吉川弘文館、1995年、239頁。

25　前掲井上「戦時下の漫画」。

番号	号　　数	発行年月	作　　者	タイトル	内　　容	備　　考
1	第75号	1942年５月	寺尾よしたか	溺るるもの	「大東亜戦争」という海に溺れるルーズベルトとチャーチルが帆にしがみついている蔣紹石に助けを求めている	番号１～３は「印度と支那」という共通のテーマで描かれている
2	同上	同上	大沼　　弘	光は東方より	足につながれたイギリス国旗マークの鉄球から脱け出し、ガンディーは「東方」へ向かう	ここでいう「東方」とは日本を指している
3	同上	同上	岡　　堅児	印度の蔣介石	蔣介石がインドからのお土産を開けてみると、それはびっくり箱だった	箱から出てきた紙には「予計なおせつかいやくな」と記されている
4	同上	同上	同上	南はかくて円満なり	南方の裕福な家の女性と、その家で召使として働く白人女性が描かれている	主人のほうは茶を飲み、召使のほうは手紙を運んできている
5	同上	同上	白路　　徹	役に立たぬ予算	お金が入った大量の袋に埋もれるルーズベルト	漫画のなかでルーズベルトは「こんなに金があつてもまだ駄目か？」と述べている
6	第76号	1942年６月	寺尾よしたか	アメリカでの話	アメリカは敗戦し、アメリカ国旗を持つ子どもは仲間外れにされることになる	番号６～８は「敗戦三態」という共通のテーマで描かれている
7	同上	同上	白路　　徹	安住の地何処	チャーチルがルーズベルトに、自分たちには海底という安住の地があると述べている	二人は陸地を追放されたのか、船上にいる
8	同上	同上	大沼　　弘	モグラ三匹	ルーズベルト、チャーチル、蔣介石は地底奥深くに潜っていく	唯一日本だけが地上にいる
9	同上	同上	同上	哀れな二人	十字架の前で祈るルーズベルトとチャーチル	番号９～11は「ルーズベルトとチヤーチル」という共通テーマで描かれている
10	同上	同上	白路　　徹	一撃	タコとなったルーズベルトとチャーチルの足が日本刀によって斬られている	斬られたタコの足には「シンガポール」、「香港」、「マニラ」と記されている
11	同上	同上	寺尾よしたか	精神病院の一室にて	ルーズベルトとチャーチルが実現できない飛行機や戦車の大量生産の妄想をしている	漫画には「数字狂つた哀れな患者二名」と記されている
12	同上	同上	岡　　堅児	敵機現はる	敵の爆撃を無力にする銃後の鉄壁の防御	漫画には敵機は東京に「爆弾を落しに来たのか、命をおとしに来たのか」と記されている
13	第77号	1942年７月	大沼　　弘	米海軍敗れたり	大波のなか、星条旗が一本だけ立てられている	漫画には「ポパイ」と記され、空になったほうれん草の缶らしきものが描かれている
14	第78号	1942年８月	岡　　堅児	未練を残す男	インド人の腕に何とかぶら下がろうとするチャーチル	インド人の視線の先には、日の丸と「独立せよ印度」と記された旗が描かれている
15	同上	同上	御法川富夫	符箋	ルーズベルトとチャーチルが蔣介石に宛てた手紙が届かずに戻ってくる	漫画には「蔣息不明で返つて来た」と記されている
16	同上	同上	白路　　徹	貯金進軍	貯金総額230億円を目指すことを訴えている	230億円という額は、大蔵省が設定した1942年度の目標貯金額

番号	号　　数	発行年月	作　　者	タイトル	内　　容	備　　考
17	同上	同上	田内　正男	飛行機品切れ	車に両翼を付けて飛ばそうとする蔣介石	漫画のなかの蔣は「ヒヨツトしたら飛べるかも知れん。」と語っている
18	同上	同上	大沼　　弘	夜毎の夢	監獄に入れられる夢をみるチャーチル	チャーチルの両足には鎖でつながれた鉄球
19	同上	同上	寺尾よしたか	無題	銃後の防諜を訴える漫画	漫画には「国民の一人一人が防諜戦士」と記されている
20	第79号	1942年９月	岡　　堅児	同病相哀れむ	敗戦という怪我をしているチャーチルと、敗戦という病気に悩まされているルーズベルト	番号20～22は「古き世界史の終幕を飾る者」という共通のテーマで描かれている
21	同上	同上	寺尾よしたか	二十世紀の侵略史	イギリスはアメリカの属国と化している	しゃがみこむチャーチルの前に主人としてルーズベルトが立っている
22	同上	同上	白路　　徹	貯金で倒せ米英を	貯金箱がルーズベルトとチャーチルの体を貫く	二人を撃ちぬく弾丸となった貯金箱には日の丸が描かれている
23	同上	同上	大沼　　弘	戦争スポーツ精神	戦争をスポーツと考えている米海軍の軍艦に襲いかかる日本の爆撃機	漫画のなかで米海軍の艦長は「軍艦はヨツト競技と違ふぞ」と部下を注意している
24	同上	同上	田内　正男	未練男	海に沈もうとしている「重慶丸」に一人しがみつく蔣介石	浮き輪で逃げる中国人たちが目指す陸地には「新支那」と記されている
25	同上	同上	大沼　　弘	キングコング敗れたり	エンパイアステートビルに登ったルーズベルトを日独伊三国の戦闘機が倒そうとしている	1933年製作の映画『キング・コング』は、日本でも同年に公開されている
26	第80号	1942年10月	田内　正男	仇敵	「大東亜」と記された牛が牛肉店アメリカを追い回す	牛の角が日本刀になっている
27	同上	同上	白路　　徹	最後は近づけり	もはや安住の地はなく樽のなかに入って海をさまよう米英中の首脳3人	番号5では海底を安住の地としていたが、ここでは安住の地は「今やなし」となっている
28	同上	同上	岡　　堅児	此消防達の腕では	消防士蔣介石を後方で援助するルーズベルトとチャーチル、しかし放水量はごく僅か	米英首脳2人が動かしているポンプには「米英」、「援助」と記されている
29	同上	同上	寺尾よしたか	銃後テイシン隊	「国土防衛」、「生産力拡充」といった荷物を背負った青年が「2百30億貯蓄」と記された銃剣でスパイを倒す	漫画には「サア皆さんも勝ち抜くまでこの意気で……」と記されている
30	第81号	1942年11月	岡　　堅児	第二戦線	崖から落ちていく者にかけ声をかけるだけのルーズベルトとチャーチル	ソ連の要望により米英軍の第二戦線が開設されるのは1944年６月
31	同上	同上	白路　　徹	日本潜水艦大西洋進出	筏で海をさまようチャーチルは、いよいよ死を覚悟する	漫画のなかのチャーチルは「大変！！いよゝもつて助からん……」と絶句
32	同上	同上	寺尾よしたか	ブラジル参戦	小さなブラジル人兵士を前にして余裕のドイツ軍兵士	ブラジルは連合国側として第二次世界大戦に参戦
33	同上	同上	田内　正男	求むるや切	安全な植民地を探すために望遠鏡を見つめるチャーチル	漫画のなかのチャーチルは「どこか安全な植民地はないかねエ」と話している

番号	号　　数	発行年月	作　　者	タイトル	内　　容	備　　考
34	第82号	1942年12月	白路　　徹	悲鳴	崖から落ちるのを十字架につかまって何とかしのいでいるルーズベルトの服を、助けてほしいとつかむチャーチルと蔣介石	漫画のなかのルーズベルトは「お前達の方まで手が廻らんよ」と悲鳴を上げる
35	同上	同上	岡　　堅児	長期戦	銃後と記された腕に力が込められ、「第一線」と記された手がルーズベルトとチャーチルを握りつぶす	漫画には「息の根を止めるまで筋肉をゆるめてはならぬ」と記されている
36	同上	同上	寺尾よしたか	侵略者の報ひ	チャーチルが「反英」の旗を掲げたインド人やエジプト人に倒される	漫画のなかでチャーチルは虫として描かれている
37	第86号	1943年４月	同上	必死に船を造つてゐる米英だが？	ルーズベルトとチャーチルが協力して「対日反抗」のために船を造っている	漫画には沈められる船だとして、「延べ棒のまゝ海へほうり込んだ方が早いですぜ。」と記されている
38	同上	同上	岡　　堅児	狸と狐とむぢな	大統領が狸の「アメリカといふ処は下等動物の集合地である。」と非難	漫画のなかで蔣介石はルーズベルトの手下のように描かれている
39	同上	同上	御法川富夫	足りない男	流れ星に向かって棒を振っている蔣介石	流れ星には「援蔣物資」と記されている
40	同上	同上	白路　　徹	南海の漁場	日本船が釣り上げたのはルーズベルト	漫画のなかのルーズベルトは裸でパンツ（星の模様）だけ身につけている
41	同上	同上	田内　正男	郵便局対航野球試合	両チームともに１回に２点、２回に３点を取り、あとは延長11回まで０点で引き分け、「仲善く二三〇億」だと握手する両チーム	スコアボードを見ると23000000000（230億になっている）
42	第88号	1943年６月	白路　　徹	弱りめにたゝりめ	炭鉱労働争議に苦しむルーズベルト	漫画のなかのルーズベルトは尻に火がついている状態で、その煙には「アメリカ炭鉱労働争議」の文字
43	同上	同上	寺尾　義孝	火事場泥棒	インド人の子どもに、自分のところの子どもにならないかと話すアメリカ人	インド人の子どもの手には「反英」の旗、アメリカ人の手には「USA」と記されたお札と鍵、アメリカ人の後ろには「ENG」と記された檻に閉じ込められた犬がいる
44	同上	同上	岡　　堅児	無題	周りで味方の飛行機が撃墜されているなか、蔣介石は双眼鏡で遠くを眺める	身の回りの被害状況を蔣介石は把握できていないということを描いている
45	同上	同上	御法川富夫	前途暗影	暗闇のなか、採掘作業を行うルーズベルト	ルーズベルトが照明として利用しているライトからは、「炭鉱罷業」という明かりが出ている
46	第90号	1943年8月	白路　　徹	此の一声よく敵を討つ	「印度独立運動」と記された紙を手に、マイクに向かって演説するボース、そのマイクから放たれたミサイルがチャーチルを襲う	マイクの中心には日の丸が描かれており、そこからミサイルが出ている

番号	号　数	発行年月	作　者	タイトル	内　容	備　考
47	同上	同上	御法川富夫	第二戦線	ルーズベルトとチャーチルは筏で第二戦線を目指す	漫画には「上陸どころか、こりや何処へ着くかわからぬ」と記されている
48	同上	同上	寺尾よしたか	新生中国の朝	上海共同租界が汪兆銘政権に返還	日本が上海共同租界を返還したのは1943年８月１日
49	同上	同上	御法川富夫	デマ	アメリカと記された馬車が崖に向かって一直線	馬の顔はルーズベルトに似せている
50	同上	同上	寺尾　義孝	英帝国の末路	ドイツの猛攻によりチャーチルには何も残されていない	漫画には「この上は餓死するのみか」と記されている
51	同上	同上	岡　堅児	悪魔を払ふ風は我が手で起せ！	「二百七十億」と記された巨大な団扇でルーズベルトを吹き飛ばす男女	270億は大蔵省が設定した1943年度の目標貯金額
52	第91号	1943年９月	吉野　弓亮	太平洋の孤児	小さいアメリカ兵に対して、「無駄」だと諭す大きな日本兵	作者名が誌上では「弓喜」となっているが、正しくは「弓亮」
53	第92号	1943年10月	寺尾よしたか	ビルマ独立	「ビルマ独立」と記された巨大な像を黒人に見せないよう目隠しをする海賊	海賊は「英」と記された帽子をかぶっている
54	同上	同上	白路　徹	短刀といへど充分目的を達す	「ビルマ独立」と記された短刀がチャーチルとルーズベルトを突き刺す	日本がビルマ独立を認めたのは1943年８月１日
55	同上	同上	岡　堅児	此の旗幟驚くにあたらない	「物資豊富」と記された旗幟を持つルーズベルトの後ろには元気のない蔣介石とチャーチル	漫画のなかで銃後と記された鍋の中身は空っぽ
56	同上	同上	寺尾よしたか	ケベツク会談とは？	ルーズベルトとチャーチルが話し合ってもそれは「怪談」となる	第一次ケベック会談は1943年８月に行われている
57	同上	同上	御法川富夫	ギヤング	傷だらけのなのに看護婦を襲おうとするルーズベルト	漫画のなかでルーズベルトはアメリカ国旗を顔に巻いている
58	第93号	1943年11月	白路　徹	今ぞ決戦	羽をまとった「学徒荒鷲」が怪物「洋鬼」（怪物と化したルーズベルト）を倒そうとしている	1943年10月21日、明治神宮外苑競技場にて「出陣学徒壮行会」が行われている
59	同上	同上	御法川富夫	獣	「アメリカ」と記された獣の手の平に日本刀が飛んでいく	アメリカの反抗が迫ってきていることを示すような漫画
60	第95号	1944年１月	岡　堅児	無題	次から次に来る難題に頭を隠す大統領	漫画には「大統領はつらい」と記されている
61	第98号	1944年４月	里美　弘二	無題	「米英のデマ通信」を「電離層」ではね返す	里美弘二が国防漫画聯盟のメンバーかどうかは不明
62	第101号	1944年７月	不明	無題	今や「皇軍」の進撃によりイギリスはインドから追放されつつあるが、そこへアメリカが手を伸ばしてきた	漫画のなかでイギリスは「老英帝国」、アメリカは「鬼畜米国」と呼ばれている

注

・第97号（1944年３月）、第99号（1944年５月）、第102号（1944年８月）、第103号（1944年９月）、第106号（1944年12月）には漫画が掲載されていない。

・第86号には「時事漫画」以外に、『逓信の知識』に漫画を投稿していた大湊秀二浪が描いた漫画が２作品掲載されている。どちらの作品も、「吾等の常会」という逓信関連の職員が記事を執筆している欄に掲載。大湊は、「大森局」という郵便局に勤務。大湊の作品は、「郵便屋さんに敬礼！」と「局内清掃挿話」というタイトル。

・第88号と第106号は、筆者所蔵の『大逓信』。

表２　郵政資料館所蔵『大逓信』掲載国防漫画聯盟作成「時事漫画」一覧

描かれていた。その一方で、逓信事業に関わる漫画は少数で、貯蓄の奨励（国民貯蓄奨励運動）をテーマにしたものが数点掲載されていた程度であった（表２・番号16、22、29、41、51）(26)。

なぜ『大逓信』では、『逓信の知識』のように逓信事業の紹介を目的とした漫画が掲載されるのではなく、「敵国」の首脳であるルーズベルト、チャーチル、蔣介石が登場する「時事漫画」ばかりが掲載されたのか。理由は２つ考えられる。先ず１つは、『大逓信』が逓信報国団なる組織の機関誌であったからである。『大逓信』は、国家に尽くすことを目的とする逓信省の職員のための雑誌であり、国民に対して逓信事業の周知を目指す『逓信の知識』とは役割が明確に異なる。たとえ一般に公開されていた可能性があるとはいえ、基本的には逓信省の職員のための雑誌である以上、逓信事業の紹介漫画を掲載する必要はなかったといえる。

もう１つの理由は、当時の漫画界の流れである。当時の漫画界は、国家に貢献することを目指して漫画家団体の一元化が進められていた。そして、太平洋戦争が勃発すると、ルーズベルト、チャーチル、蔣介石を描く漫画が氾濫していく(27)。「愚かな敵」の姿を描くことで、漫画界として国家に貢献しようと動き出したのである。国防漫画聯盟は、まさにこの流れを推進していた漫画家団体の１つであった。

この２つの理由から、ルーズベルトら３人の「敵」を描いた多くの「時事漫画」が『大逓信』に掲載されることになったのである。つまり、『大逓信』掲載の「時事漫画」とは、逓信報国団と国防漫画聯盟が国家に貢献することを目指して作成されたものであり、両者の協力関係を具体的に示すものであった(28)。

4　おわりに

以上、戦時下における漫画と国家との関係を考えるため、逓信博物館発行の『逓信の知識』と、逓信省発行の『大逓信』に掲載されていた漫画の分析を行ってきた。両誌は雑誌としての性質や発行の時期が異なるため、そこに掲載されていた漫画の趣旨も異なるものとなっていたが、どちらも逓信省と漫画家との協力の結果として生み出された作品群であった。

逓信省は、『逓信の知識』では国民に逓信事業を分かりやすく伝えるため、『大逓信』では政府の機関として国家に貢献すべく、戦争の勝利は確定的なものであることを宣伝するため漫画を利用した。一方の漫画界のほうは、戦時下で出版物の発行が厳しくなるなかでこの貴重な機会を逃さないかのように、多くの漫画家が作品を掲載していた。

雑誌の性質、発行時期、漫画を掲載していた漫画家が異なるため、『逓信の知識』に漫画を載せていた漫画家と、『大逓信』に漫画を載せていた漫画家の国家への貢献意識を比較することはできない。しかし、どちらの漫画家もその意識は高かったものと思われる。

「時事漫画」を描いていた国防漫画聯盟のメンバーたちの国家貢献への意識が高かったことはいうまでもないだろう。『逓信の知識』に漫画を描いていた漫画家までその意識が高かったと指摘するのは、彼らが戦時中の漫画界の中心にいた人物たちだからである。戦時中の漫画界

26　1942年度は目標額230億円、1943年度は目標額270億円といったように、大蔵省が中心となって展開されていた国民貯蓄奨励運動については、岡田和喜「戦時貯蓄奨励運動と貯蓄組合」（『経済集志』第60巻第４号、1991年１月）が詳細な分析を行っている。

27　前掲井上「戦時下の漫画」。

28　「時事漫画」の掲載が逓信省側からの依頼なのか、国防漫画聯盟からの要望なのかは不明である。なお、『大逓信』第106号には、漫画の投稿募集が掲載されている（「大逓信の原稿を募る」）。その数号前あたりから『大逓信』に「時事漫画」が掲載されなくなっていることと併せて考えると、1944年の後半頃には、逓信報国団と国防漫画聯盟との協力関係は解消されていたのかもしれない。

は、漫画家それぞれが個々に活動しようとしたのではなく、一元化した組織を作ることで、国家に協力していこうとする姿勢を示していった。その体制作りを担っていたのは、『逓信の知識』に漫画を掲載していた著名な漫画家たちである。彼らが『逓信の知識』に逓信事業の紹介漫画を描くときに、国家への貢献という意識がなかったと考えるほうがむしろ不自然であろう。

国家機関の発行する雑誌に、漫画家が漫画を掲載する。それは国家の一方的な指示によるものでもなければ、漫画家たちからの一方的な要望でもない。双方の目指す方向が一致した結果といえる。多くの漫画が掲載されていた『逓信の知識』と『大逓信』は、戦時中の漫画家と国家との関係を象徴的に示しているのである。

【付記】本稿は、科学研究費補助金基盤研究（B）「軍事郵便がもたらした体験の共有化と大衆化に関する研究」（課題番号23320144）による研究成果の一部である。

（ごとう　やすゆき　専修大学大学院　文学研究科　歴史学専攻）